

クビアカツヤカミキリに注意！

1 発生状況

平成24年に国内で初めて発見され、11都府県に発生地域が拡大しています。大阪府では、平成27年に初めて確認され、11市町村に発生地域が拡大しています。平成30年1月には、飼育・移動などを禁止する特定外来生物に指定されました。

2 生態

- (1) さくら、もも、うめなどバラ科樹木を加害する。中国や朝鮮半島などに生息している。
- (2) 成虫の体長は約2～4cm。前胸は赤色で全体は光沢のある黒色。ジャコウのような臭いを放つ。



▲府内の発生状況



▲成虫



▲うどん状のフラス

3 被害状況

- (1) 幼虫は3月下旬～10月頃に中華麺～うどん状のフラス(木くず等の混合物)を排出する。
- (2) 幼虫に食入された樹は樹勢が低下し、果実が肥大しない。放置すると枯死に至る。

4 防除対策

- (1) 成虫(6～8月に発生)は見つけ次第、固い地面で踏みつけるなどして捕殺する。
- (2) フラスを見つけたら、千枚通しや針金等を穴に入れ、中のフラスをかき出し、薬剤を注入する。
- (3) フラスが出ている樹は、4mm 目合いのネットを巻き付けるなどして、成虫の拡散を防ぐ。
ネットは、高さ2m 程度まで、口はしっかり、幹はゆったりと2重に巻く。
- (4) 定期的にネット内を確認し、成虫を見つけ次第、ハンマーなどで撲殺する。
- (5) 被害の大きい枝や樹は、早期に伐採し、チップ化する。
可能な場合は市町村の規定に従い焼却する。切り株も、ネットやビニルシート等で覆う。



▲ネット被覆(さくら)

防除対策の詳細は、農業技術資料「クビアカツヤカミキリの生態と防除対策」を参照。
(大阪府病害虫防除グループホームページ <http://www.jppn.ne.jp/osaka/>に掲載)

表 クビアカツヤカミキリの防除薬剤(抜粋)

作物名	薬剤名 (IRACコード)	適用 害虫名	希釈倍数 (使用液量)	使用方法	使用時期	本剤の 使用回数
うめ もも すもも	ロビンフッド(3A) ベニカカミキリムシ エアゾール(3A)	カミキリ ムシ類	—	樹幹・樹枝の食入孔にノズルを差し込み噴射	収穫前日まで	噴射は 5回以内
うめ	アクタラ顆粒水溶剤 (4A)	クビア カツヤ カミキリ	2000倍	散布	収穫7日前まで	2回以内
もも					収穫前日まで	3回以内
おうとう					収穫7日前まで	2回以内
小粒核果類(うめを除く)						
うめ もも	バイオセーフ (微生物農薬)	カミキリ ムシ類	2500 万頭 (約10g)	2.5ℓの水に希釈し、木屑排出孔を中心に薬液が滴るまで樹幹注入	幼虫発生期	—
うめ	アクセルフロアブル (22B)		1000倍	散布	収穫前日まで	3回以内
果樹類	バイオリサ・カミキリ (微生物農薬)	カミキリ ムシ類	1本 ／樹	地際に近い主幹の分枝部分等に架ける	成虫発生初期	—
樹木類	ロビンフッド(3A) ベニカカミキリムシ エアゾール(3A)	カミキリ ムシ類	—	樹幹・樹枝の食入孔にノズルを差し込み噴射	—	6回以内
さくら	園芸用 キンチョールE(3A)	クビア カツヤ カミキリ	—	食入部にノズルを差し込み、薬剤が食入部から流出するまで噴射する。	—	—
	アクセルフロアブル (22B)		1000倍	散布	成虫発生直前～成虫発生期	6回以内
	マツグリーン液剤2 (4A)		100倍	木屑排出孔を中心に薬液が滴るまで樹幹注入	—	6回以内
	マツグリーン液剤2 (4A)		50倍	食入孔に注入	発生初期	5回以内
	バイオリサ・カミキリ (微生物農薬)		1本 ／樹	主幹又は主幹の分枝部分に巻き付ける	成虫発生初期	—

農薬の最新情報は、農林水産消費安全技術センターの農薬登録情報提供システムで確認してください。

(http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm)